津山市教育振興基本計画（第3期）

〔令和4（2022）年度～令和7（2025）年度〕

～自立し　心豊かにたくましく　「つなぐ力」を育む～

津山市教育委員会

令和４年３月

はじめに（ごあいさつ）

これからの社会は、グローバル化やデジタル技術の進展、さらには人口知能（AI）やビックデータ等をはじめとする技術革新など、Society5.0 時代が到来し、変化の激しい予測困難な時代と言われています。

また、世界中が新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的な事態に直面し、一層先行き不透明な社会の中で、私たち一人ひとり、そして社会全体が、これからどう立ち向かうのかが問われています。

一方、子どもたちを取り巻く環境は、いじめや不登校の増加、学力や貧困の問題など様々な課題が年々山積する中、教育の果たす役割は益々重要となってきています。

今後、子どもたちがこのような社会を生きていくためには、一人ひとりが、課題を見いだし、主体的に考え、多様な人々と協働しながら、課題を解決する資質能力を育成することが求められています。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、時を同じくして、国の GIGA スクール構想が動き出し、一人一台端末の整備等、学校の ICT 環境が急速に整備されました。社会全体のデジタル化が進展する中で、今後は、ICT 環境を活用する新しい時代の学校教育を実現していくことが必要となります。

これからの時代において、子どもたちには、生涯にわたって、互いの人権や個性を尊重し認め合い、自他を高め、支え合って生きていく力を身につけることにより、自分の良さや可能性を信じ、将来の夢や目標に向かって自らの人生を切り拓いてほしいと願っています。

そして、ふるさと津山に誇りと愛着を持ち、将来社会や地域に貢献できる人材の育成を、学校・家庭・地域が一体となって、育んでいきたいと考えます。

第３期津山市教育振興基本計画は、これからの社会構造の変化を見据え、現行計画を検証・発展させながら、教育理念や目指す教育の方向性を改めて明確にし、今後の明るい津山の未来を創るための本市教育全体の「道しるべ」であります。

未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中ではありますが、新しい生活様式の日常的定着を図りつつ、本計画の趣旨を踏まえながら、これからの時代に求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に努めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、津山市教育振興基本計画検討委員会委員長の中国学園大学副学長　住野好久　様をはじめ、各委員の皆様並びに多くの住民の皆様から、貴重なご意見ご提案を頂き、心からお礼を申し上げますとともに、今後の本計画の推進に、より一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和４年３月

津山市教育委員会
教育長　有本明彦

津山市教育大綱

私たちのふるさと津山市は、岡山県北東部に位置し、北部は中国山地の一角を形成し、南部は津山盆地と呼ばれ、標高１００ｍから２００ｍの平坦地が広がっています。約１３００年前にこの地に美作国の国府が置かれてから、現在に至るまで、地域における政治、経済、文化の中核として発展してきました。また、周辺部には美しい里山の風景が広がり、都市と自然が融合する、表情豊かな地域です。

江戸時代、津山藩では学問を奨励しており、日本初の本格的な化学書「舎密開宗（せいみかいそう）」を著し、「細胞」「繊維」「酸素」などの用語を造語した宇田川榕菴（うだがわようあん）や、日本に開国を迫るペリーが持参したアメリカ合衆国大統領の親書を翻訳した箕作阮甫（みつくりげんぽ）など、多くの優れた洋学者を輩出しています。彼らの遺した業績は、明治以降の我が国の発展を支えました。

未知なる学問に挑み続けたこうした先人たちの姿に学び、変化の激しい時代を生きる私たちは、これからの未来を生きるこどもを育む教育の姿をこの大綱に描きました。ここには、津山のこどもたちが社会の中で自信と誇りを持って歩んでほしいという願いが込められています。

令和３年２月１日

津山市長　　谷　口　圭　三

１　私たちが育てたいひと

（１）自立して、自己の将来を切り拓き、たくましく生きていけるひと

（２）社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、互いを認め合って生きていけるひと

（３）ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひと

２　私たちがめざす教育

（１）自ら学ぶ力の育成
夢や目標をみつけられるよう、物事に興味や関心を持ち、自ら体験し学ぶ力を育みます。

（２）すこやかな心とからだの育成
健全な社会生活を送るため、互いを思いやる心と健康なからだを育みます。

（３）自己肯定感の醸成
様々な体験や経験を通して、自分の良さをみつけ、自信を持って主体的に生きていく力を育みます。

（４）人とつながる力の育成
多様性を認め、他者を尊重する姿勢や対話する力を育みます。

（５）津山を思う心の醸成
津山の歴史や文化に触れる機会をつくり、ふるさとを愛する心を育みます。

３　私たちがつくる学びの場

（１）夢中になって遊ぶことができる園
園児が、豊かな体験をする中で自ら気付いたり考えたりできる園をめざします。

（２）学ぶことが楽しくなる学校
児童生徒が、自ら深く考え教師や友人と対話しながら学ぶ学校をめざします。

（３）安心して学ぶことができる学校・園
落ち着いた学習・保育環境を構築し、幼少期から一貫した個に応じた学びが充実する学校・園をめざします。

（４）地域と共にある学校・園
家庭や地域と連携し、地域全体でこどもを育てる学校・園をめざします。

※　「学校」は、小学校、中学校のことです。「園」は、保育園（所）、幼稚園、認定こども園のことです。

目次

第１章　津山市教育振興基本計画（第３期）の策定について……1

１ 計画策定の趣旨……1

２ 計画の位置付け……1

３ 計画の期間……1

４ 計画における教育の範囲……1

第２章　本市教育の現状と課題……3

１　教育を取り巻く社会経済情勢……3

２　国・県における教育目標・教育施策の動向……5

３　第２期教育振興基本計画における取組の検証～成果と課題～……7

【第２期教育振興基本計画の総括（詳細）】

Ⅰ　個の確立とつなぐ力を育む……10

（１）幼児教育の充実……10

ア　教育内容の充実と環境の整備……10

（２）義務教育の充実……13

ア　確かな学力の向上……13

イ　豊かな心の育成……17

ウ　健やかな体の育成……21

エ　特別支援教育の充実……24

オ　開かれた学校づくり……26

（３）教育環境の充実……28

ア　安全・安心の学校づくり……28

イ　安全・安心に配慮した学校給食の充実……29

ウ　良好な教育環境の維持・向上……30

Ⅱ　身近な人々のつなぐ力を育む……32

（１）青少年の健全育成の推進……32

ア　青少年健全育成の総合的な推進……32

イ　相談、支援体制の整備と社会参加の促進……33

（２）家庭・地域の教育力の向上 34
ア　学校・家庭・地域が連携した教育の推進 34
イ　家庭教育への支援 36
ウ　地域資源を活用した学習の推進 37

第３章　計画期間に取り組む施策の基本的方向 39
１　津山市が目指す教育 39
（１）目指す人間像 39
（２）教育基本理念 40
２　今後４年間で取り組む教育施策 40
Ⅰ　教育活動の推進・充実 42
（１）自立 42
ア　主体的に学ぶ意欲の育成 42
イ　確かな学力の向上 46
ウ　健やかな心と体の育成 50
（２）つながり 57
ア　自他を尊重する心の育成 57
イ　人や地域との豊かな人間関係の構築 59
ウ　道徳性や規範意識の醸成 62
（３）郷土愛 65
ア　津山の歴史・伝統・文化などを大切にする心の育成 65
イ　ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献できる人の育成 67
Ⅱ　教育環境の改善・充実 68
教育活動を支える環境づくり 68
ア　安全・安心な学校づくり 68
イ　良好な教育環境の維持・向上 70
ウ　総合的な連携体制の構築 73

第４章　計画の実現に向けて.....75

参考資料（資料編　策定経過　検討委員名簿　意見募集）